

二 櫻に青き月を懸けし

春の夜に月を懸けし

三 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

四 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

五 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

六 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

七 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

八 春の夜に月を懸けし

九 春の夜に月を懸けし

十 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

十一 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

十二 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

十三 春の夜に月を懸けし

秋の夜に月を懸けし

元の工場をたづぬれば

我青春はゆかんとす

獻身苦闘血盟の

八、山河をこえて幾百里

同志は殺いて隙もなし

同志の難に我は行く

兵刀は折れて矢は盡きて

往の愛は我胸に

我とらはれの身となりぬ

同じ調べを傳ふかな

無念なるかや燃ゆる皿よ

九、同志一人は床に臥し

雁聲高し秋の夜

同志二人は獄にあり

六、我に輝く理想あり

前途は遠く日は暗し

行手をさへぎる者あらば

我いつの日か報はれん

正義のつるぎ血ぬるべし

絶望の間とさせども

七、春の櫻に秋の月

友の情に感じては

世の閑人の酔へるとき

いかで持場を捨つべきや

プロパーガンダの戦に

十一、友よ此の腕黒き腕